

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	佐賀整肢学園こども発達医療センターひよこ教室		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日	～	R7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日	～	R7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個性・特性に留意した支援に関して、評価いただいている。	保護者と登園・帰園の送迎時等に、日頃の状況を保護者と情報共有及び意見交換することで、共通理解を図った上で支援を行っている。	勉強会や研修へ積極的に参加していく。支援については、見通しと根拠を明確して対応を図る。
2	職員との関わりや過ごし方を親子利用の際にみていただくことにより、通所する楽しさへ繋げることができている。	親子利用から開始し、親子共に楽しく充実した利用となるよう関わる。あそびの中で楽しく感じられるような機会の創出に努めている。	保護者同士の交流の機会となるように、交流会や行事の実施を図る。
3			
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所、認定こども園・幼稚園等の交流の機会がない。	感染症対策から交流の機会をつくれていない。	交流活動が行えるよう、起案計画を立てる。
2	生活空間の心地良さを考えると設備面を整えていく必要がある。	建物の構造上の問題。照明の具合、室温(トイレ含む)管理やカビ対策。	毎日の掃除、換気行う。除湿器や暖房器具の活用、修繕工事の検討を図る。
3			

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	佐賀整肢学園こども発達医療センターひよこ教室				公表日	R8年 3月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		職員間の協力や他部署からの応援により、協力ができている。	こども達の環境及び支援が、よりよいものになるように業務整理・工夫や人員配置検討に努めています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		スペースわけの工夫はしているものの、子どもの方で仕切りが倒れてしまうこと。	今後もこども達の個性・特性に合わせた生活空間及び環境の構築に努めています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9			毎日の掃除に合わせて、定期的な大掃除を検討しこども達へのよりよい空間作りを努めています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	必要に応じて個別対応を行っている。	こども達の個性・特性に合わせて柔軟な環境設定に努めています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			外部評価の実施なし。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9			看護・看護助手勉強会、センター勉強会、e-ラーニング、外部の研修会等に適宜参加しスキルアップ向上に努めています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		受診結果をもとに今後の支援を検討している。個性や特性に応じた関わりを保護者と相談しながら実施している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	前日に職員の配置決めを行い、当日はリーダーが中心となり療育準備を行っている。	申し送りノートやミーティング報告書等にて、支援の内容や役割分担が更に円滑化されるように努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	療育前打合せ、療育後の振り返りはその都度行う。看護師や保育士での情報共有ができています。	申し送りノートやミーティング報告書等にて、支援の内容や役割分担が更に円滑化されるように努めます。

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	担当者会議を行ったり、必要時園の見学等情報共有ができています。また、見学依頼も受けその都度対応している。	今後もこども達の個性・特性を大切にしながら、他事業との速やかな連携に努め、更なるインクルージョン推進に努めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	8	1		適宜、他の児童発達支援センターや障害児支援事業等と連携を図っております。そこに関わるスタッフの機会を増やし更なる質の向上に努めていきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9		研修に参加できている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	8	佐賀地区自立支援協議会が1月より再開予定している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	1	託児所との交流ができています。	今後の取り組みとして、地域交流に向けた計画を立てていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		ペアレントプログラム、ペアレントトレーニングを家族に情報提供している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		親子利用をしてもらいながら、今後の支援等聞き取り目標を検討する。	今後も懇切丁寧に努めていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		ほのほのcaféを実施している。	保護者同士の交流機会を増やしていきたい。行事の実施や保護者を対象とした交流会等を企画・検討に努めます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		おたよりやLINEでお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		保護者の了承後に絵カードや写真カードを使用し、日常の支援へ繋げることができている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	2	子育てセミナー1回のみ実施。地域公開講座等。秋祭りの実施。	今後も行事を通して地域交流に努めていきます。より多くのスタッフが交流に参加できるように調整を図ります。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		日中過ごしていく中で、身体拘束が必要であるかどうかを説明して了承をいただいている。	